

事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	保育所ふれあい交流推進事業		
事業担当	健康・こども部 保育課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	①〈地域力〉 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	入所児童、地域住民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 民間保育園】		
	目的・目標		事業の概要
地域ぐるみの交流を通して、児童のお年寄りへの「いたわり」や「思いやり」の心を育て、社会性を養うとともに、地域の子育てが支えられています。		保育所の持つ地域性を活用し、児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うため、世代間交流事業、異年齢児交流事業、自然体験活動等を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	実施保育所数			単位	園
	説明・算定式	延べ実施保育所数				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	37	37	40	40	
	実績	40	39	39		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	交流事業数			単位	回
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	2500	2500	2500	2500	
	実績	2344	2211	2156		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成25年度の主な取組と成果						
子育て家庭交流、世代間交流等の各種交流事業を実施したことにより、児童の社会性を養うことができました。						
平成25年度の検証結果	B：おおむね成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うために必要性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	保育所が行う子育て家庭交流等は、入所児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うのに有効です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	事業が適切に実施されることにより、入所児童の思いやりを持つ心や社会性が養なわれるとともに、生きる力が培われ、事業目的を達成するのに妥当です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業内容等を検討し、更に効率性を高めていきます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析		保育所や幼稚園に通っておらず、家庭内で保育をしている世帯とのさらなる交流を深めていく必要があります。		

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施
財源内訳	国庫支出金	450	450	0	0
	県支出金	750	346	307	525
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	2,400	1,903	2,394	2,425
事業費 (A)		3,600	2,699	2,701	2,950
執行率 (%)		100.00	74.97	75.03	
内訳	職員 (人)	6.95	6.65	6.70	6.10
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
	人件費 (B)	56,323	53,300	53,252	47,660
フルコスト (A+B)		59,923	55,999	55,953	50,610

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成27年度の取組方針	広報やホームページ等で積極的に事業の周知やPRを行い、各種交流事業への参加者数の増加を図ります。
課長コメント	地域に開かれた社会資源として保育所の有する専門的機能を活用し地域全体での子育て力を高め、子どもたちの社会性を養っていきます。また、保育所等に通わず家庭内で保育をしている世帯との更なる交流を図ります。